

# はくいちゅうしんきよてん 羽咋中心拠点地区(第二期) (石川県羽咋市)

- 計画期間 令和3年度～令和7年度
- 面積 143ha
- 交付対象事業費 2,662.6百万円
- 市人口 20,386人

## ポイント

羽咋駅周辺における商業施設跡地を核とした、だれもが暮らしやすいコンパクトな市街地の形成。

## 地区概要

本地区は、羽咋駅が立地し、かつては駅前の大型商業施設を中心に中能登エリアの玄関口としての機能として発展してきた区域である。

## 目標

大型商業施設跡地を活用した賑わい交流拠点の整備を中心に中心市街地の居住環境の改善や交流人口の拡大を図り、移住・定住の促進及び公共交通の利便性向上により、誰もが暮らしやすいコンパクトな市街地の形成を目指す。

## 指標

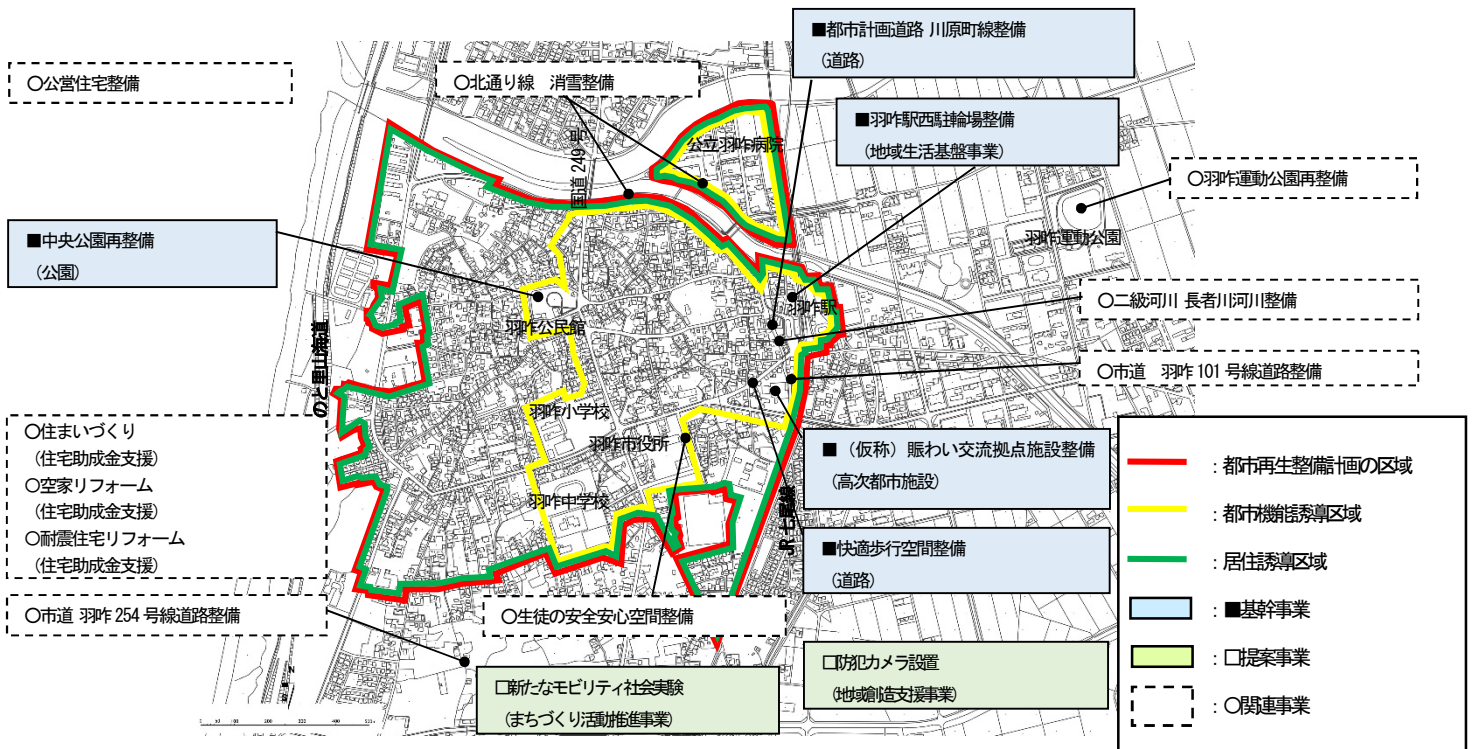
大型商業施設跡地を活用した賑わい交流拠点の整備を中心に中心市街地の居住環境の改善を図り、移住・定住の促進するための指標として、(仮称)賑わい交流拠点施設利用者、居住誘導区域内若者・子育て世代人口、羽咋駅利用者数の維持を設定。

(仮称)賑わい交流拠点施設利用者	0人 (R1)	→	60,000人 (R7)
居住誘導区域内若者・子育て世代人口	1,442人 (H27)	→	1,442人 (R7)
羽咋駅利用者数	544,772人 (R1)	→	545,000人 (R7)

## 事業内容

基幹事業 (2,576.2百万円) → 高次都市施設 (地域交流センター)、公園 (中央公園)  
道路 (都市計画道路川原町線、快適歩行空間整備)  
地域生活基盤整備 (羽咋駅西駐輪場)

提案事業 (86.4百万円) → 防犯カメラ設置、新たなモビリティ社会実験、羽咋駅周辺照明デザイン事業、定住促進広報事業



## 地区の現況と課題

### 現況

本地区は、JR七尾線の羽咋駅が立地し、かつては駅前の大型商業施設を中心に中能登エリアの玄関口としての機能を果たしてきたが、当該施設が閉鎖した後は交流人口が激減し、空き地・空き家が点在するなど、中心市街地の空洞化が顕著な状況となっている。

### 課題

羽咋駅前の大型商業施設跡地を活用し、新たに賑わい交流拠点施設などを整備することで、中心市街地内人口や羽咋駅利用者の減少を抑制し、新規店舗の開設などを促しながら、駅前の賑わいを再生する必要がある。



羽咋駅周辺における商業施設跡地



整備イメージ

### 防犯カメラ設置事業

整備による交流人口の増加に対し、施設周辺の通学路を利用する児童生徒の安全確保する。また、駅から交流拠点施設を利用する人の移動についても同様に安全確保するため、駅周辺及び交流拠点施設周辺に整備する。

### 新たなモビリティ社会実験事業

区域外の生活利便施設へのアクセスの確保による地域公共交通の充実を図り、地域交流による賑わいの創出、誘導区域内の居住快適性を高めるために無人バス等による実証実験を行う。



新たなモビリティイメージ

### 羽咋駅周辺照明デザイン事業

羽咋駅周辺において新たに整備される施設や都市計画道路、商店街等の照明整備において、統一感、一体感を創出するため、景観に配慮した照明デザイン整備を実施する。

## 計画策定プロセス

平成30年度に策定した「羽咋駅周辺整備基本構想」の基本コンセプト「市民とともに つくる・楽しむ・集う 羽咋の玄関口らしい地域交流による賑わい創出」を踏まえ、JR七尾線羽咋駅西口の市有地（商業施設跡地。以下「計画地」とする）、都市計画道路川原町線及びその二つに沿った二級河川長者川の一体的な整備活用により、羽咋駅周辺における賑わいの創出を具現化していくため、計画地における「(仮称)羽咋駅周辺賑わい交流拠点」の整備に向けた導入機能や面積規模、事業手法等の具体的計画、都市計画道路川原町線及び二級河川長者川の整備計画等について策定し、大型商業施設跡地を活用した賑わい交流拠点の整備を中心に中心市街地の居住環境の改善や交流人口の拡大を図り、移住・定住の促進及び公共交通の利便性向上により、誰もが暮らしやすいコンパクトな市街地の形成を目指す。